

アイソトープ実験センターの歩み(1998年から2007年)

小 川 和 男

基生研 20 周年記念誌において、当施設の開設 (1979 年) から 1986 年までを「創設期」、1987 年から 1997 年までを「成長期」と言えると記述したが、これに倣うと 1998 年から 2007 年までは「変革期」と言えるのではないかとと思われる。

まず 2 度の施設の名称変更があった。1 度目は 2000 年、組織改革により、「基礎生物学研究所アイソトープ実験施設」から「岡崎国立共同研究機構アイソトープ実験センター」と施設の名称が変更された。これにより当施設は、基生研・生理研の共同利用施設から、基生研・生理研・分子研の 3 研究所の共同利用施設になった。2 度目は 2004 年、法人化により、「自然科学研究機構岡崎共通研究施設アイソトープ実験センター」となった。

次に放射線管理区域の新設・縮小が行われた。2002 年に、山手地区に新しい事業所 (放射線管理区域) として山手地区実験施設が開設された。明大寺地区では、山手地区への移動により放射線業務従事者が減少した。また、感度の良い蛍光剤の登場など生物学実験における脱アイソトープ化により従事者数及びアイソトープの使用量が減少した。そこで 2003 年に基生研分室及び生理研 RI 室を廃止し、明大寺地区の放射線管理区域は、共通棟 RI 室及び形質統御棟 RI 室の 2 箇所になった。

設備面では、2006 年、明大寺地区実験施設において、入退室管理システム及び放射線モニタリングシステム中央監視装置の更新を行った。

運営面では、センター長を野田昌晴教授 (1997 ～ 1998、2005 ～)、飯田滋教授 (1998 ～ 2001)、山森哲雄教授 (2001 ～ 2003)、高田慎治教授 (2003 ～ 2005) が併任した。放射線取扱主任者または管理責任者として、基生研技術課の古川和彦 (1979 ～ 1999(異動))、加藤洋介 (1994 ～ 2003(転出))、諸岡直樹 (1998 ～ 2002(異動))、松田淑美 (1988 ～)、澤田薫 (2003 ～)、飯沼秀子 (2003 ～)、および研究教育職員として小川和男 (1995 ～) が施設の安全管理と運営に尽力した。